

予算特別 委員会質疑



当初予算は、議長を除く11人で構成する予算特別委員会で集中審議をしました。

特別委員会は、特定の案件を審議あるいは調査するために議会の議決に基づいて設置される委員会で、重要な議案を扱ったり、重要な問題を調査します。

来年度予算のここが聞きたい！！

ふるさと納税 今後の事業展開は

問 寄付額の1億3,000万円の全てが町の収入ではなく、町民税の流出分と委託料等の経費の分を差し引いた金額が、実質、どのくらいが町に入るのか。また、その使い道は。

答 今年度の実質収支は、約7,500万円を見込んでいる。使い道については、一般財源化して、広く使っており今後は、各市町が実施している事業展開を研究していく。

小児医療費のさらなる 拡充の可能性は

問 小児医療費助成を中学3年生まで拡充するが、所得制限を設けない考えは。

答 町民の全体の所得水準が高い実態もあり、所得に応じた負担をお願いしたいので所得制限を設けています。



自治会役員のなり手 不足支援策は

問 各自治会役員のなり手不足が懸念されている。本町においての自治会は重要な組織であるが、今後、成り立たなくなるのではないかと心配している。町はどのように支援をしていくのか。

答 自治会の役員のなり手不足解消策はなく、自治会の皆さんも悩んでいる。年7回開催している自治会長会議で意見交換をしながら、町としてそれぞれの地域にあった支援策を考えていきたい。



自治会は本町において重要な組織である（町防災訓練より）

コミュニティ施設整備 修繕が必要な時の対応は

問 今年度は中家村公民館の屋根及び外壁塗装工事の予定があるが、毎年1棟ずつだと、全ての自治会を行うには10年以上かかり、速度が遅いと感じる。

答 地域集会施設は順番に工事しており、2年以上でできれば良いが、予算の状況もある。自治会要望等であるが、その都度対応できるように、順番を変えられる体制にはなっている。

高齢者世帯の見守り 万全の体制が

問 今後、高齢者が急増する中で、自治会に加入している人は福祉部で見守りができるが、自治会に加入していない町民をどう見守っていくのか。

答 高齢世帯が増加する中で高齢世帯の見守りは、民生委員、老人クラブにお願いをしていく。緊急通報装置だけでなく、他の方法もあるので、調査研究していきたい。



鷹による追い払いの効果は

問 平成30年度も鷹によるムクドリへの追い払いを行うのか。また、仮にムクドリが戻ってきた場合の対策は。

答 平成29年度は鷹をとばし、ある程度の効果があった。鷹匠と話した中で、しばらくは効果が続くだろう

ということなので、鷹での追い払いは実施しない。また飛んでくるのであれば、駅前等の景観保持も踏まえながら伐採も考えていく。



鷹による追い払い

指定管理者を導入 2年目の施策は

問 平成29年度から瀬戸屋敷に指定管理者を導入、民間活力を取り入れた中で、どのようにアピールしていくのか。また、南部地区の方が北部に足を運ぶ施策は。

答 昨年10月から瀬戸屋敷にカフェがオープンしたが、景観そのものが古くなっている。今後は指定管理者から指導を受け、町民の意見も取り入れたり、瀬戸屋敷倶楽部との連携を図っていく。南部地区の方に対しての施策はないので、努力していきたい。



新しくオープンしたカフェ